

米国学術研究の動向

国際教育統計センターによる6年に渡るレポートが発表

12月1日、教育省国際教育統計センター（National Center for Education Statistics）による報告書「2003年度後期中等教育機関入学者における持続性と到達度（Persistence and Attainment of 2003-04 Beginning Postsecondary Students: After Six Years）」が発表された。

本報告書は、学生の後期中等教育開始時から継続的に行われる調査（Beginning Postsecondary Students Longitudinal Study）に基づき、1年後、3年後、6年後の3点において調査が行われ、別の大学へ再入学した者や、転学した者についても引き続き調査が行われる。

報告書によると、2003年度に入学した学生は6年以内に30.7%は学士号、9.3%が準学士号、9.4%が証明書を得ており、15%の学生は引き続き在学中であった。

2つの学生群における6年後の状況比較

6年後の状況	1995年度入学者	2003年度入学者
学士号（Bachelor）を取得	28.8%	30.7%
準学士号（Associate）を取得	10.0%	9.3%
証明書（Certificate）を取得	12.0%	9.4%
4年制大学に現在も在学中	8.8%	7.1%
2年制大学に現在も在学中	5.6%	7.9%
退学	34.8%	35.5%

Inside Higher Education ウェブサイトより抜粋。

参考：

国際教育統計センターウェブサイト

<http://nces.ed.gov/pubsearch/pubsinfo.asp?pubid=2011151>